

①個別データシート

種類 輸送

英名 transport by cars for business use

整理番号: JP525080

分類 道路旅客運送業

和名 営業用乗用車輸送

・GHG排出量 4.98E-01 kg-CO2e/人km

・情報源分類 統計分析データ

・技術記述子 営業用乗用車による旅客輸送

・技術の内容と機能 日本における、乗車定員10人以下の営業用旅客自動車（乗用車）による旅客輸送を対象にしている。ハイヤー・タクシー事業者などによる輸送である。

・情報源

参考:用語の解説

- ・旅客自動車とは、人の運送の用に供する自動車で乗用車及びバスをいう。
 - ・営業用車とは、他人の求めに応じて貨物又は旅客を輸送する自動車で、トラック事業者、バス事業者、ハイヤー・タクシー事業者、軽車両等運送事業者などが保有する自動車をいう。
- 注. ここでは旅客自動車のうち、乗車定員11人以上をバス、10人以下を乗用車として区別している。

国土交通省鉄道局,“自動車輸送統計調査”, (オンライン), 入手先<<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/jidousya/jidousya.html>>

・データ作成者コメント

- ・“自動車輸送統計調査”では旅客自動車のうち営業用は、バス（乗車定員11人以上）（乗合と貸切の区分あり）と乗用車（乗車定員10人以下）に分けて統計数値が計上されている。ここでは乗車定員10人以下の乗用車による旅客輸送を対象にしている。
- ・“自動車輸送統計調査”の平成12年度の業態別・車種別輸送人キロおよび業態別・車種別燃料消費量より営業用乗用車の輸送人キロ、燃料消費量を得て原単位化した。
- ・燃料は、ガソリン、軽油、LPGであり、いずれもL単位で記載されていたが、LPGについては次項の方法でMJ単位に換算して原単位化した。
- ・日本LPガス協会HPのLPガス概要より、プロパン、nブタンの液密度(kg/m³)、高位発熱量(kJ/kg)を得て、液体積当たりの発熱量(MJ/L)求め、自動車用LPGをプロパン2、ブタン8の混合と設定して、発熱量28.27MJ/Lとして発熱量(MJ単位)に換算の上原単位化して計上した。

・適用範囲

本における、乗車定員10人以下の営業用旅客自動車（乗用車）による旅客輸送である。ハイヤー・タクシー事業者などによる輸送のことである。
自動車燃料はガソリン、軽油、LPGのいずれにも適用する。（日本全国の平均で計上してある。）
乗車定員11人以上の場合はバスの扱いになり、この乗用車による輸送とは異なる。

・システム境界

資源採取から輸送サービスまでを範囲とする。輸送プロセスのため、輸送される製品は含まない。

・配分

共製品（サービス）なく配分なし

・GHG排出量の要因

主なGHG排出源は、熱エネルギー、LPG(燃焼・LPG)由来のCO₂(化石資源由来)、である。

②入出力データ

区分	フロー区分	品目名	連鎖した品目名	公開整理番号	数値	単位	備考
ユーティリティ	中間フロー	入力	燃焼・LPG	燃焼・LPG	JP111024	6.45E+00	MJ
ユーティリティ	中間フロー	入力	燃焼・ガソリン	燃焼・ガソリン	JP111002	8.01E-03	L
ユーティリティ	中間フロー	入力	燃焼・軽油	燃焼・軽油	JP111013	4.32E-03	L
製品	中間フロー	出力	営業用乗用車輸送	営業用乗用車輸送	JP525080	1.00E+00	人km